

日本国際秘書学会

Japan Association for International Secretarial Studies

JAISS日本国際秘書学会発行 2023.2.28

会長 ご挨拶

会長 大塚 映



会員の皆様におかれましては、コロナ禍が未だ終息が見えない厳しい状況の中、それぞれにご活躍のことと拝察いたします。

この度、平田祐子前会長の後任として、日本国際秘書学会会長に就任いたしました大塚映でございます。微力ではございますが、本学会の活性化と発展に貢献できるよう最善を尽していく所存でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

今年度の2022年度は3年に一度の役員改選の節目の年となり、役員顔ぶれは留任の方々をはじめ、新たに若手の方々にもご就任いただき、新体制となりました。役員皆様のこれまでの多方面に渡る様々なご経験やご活躍なども元に、また、役員だけではなく会員の皆様と共に一丸となって、本学会の活性化に寄与して参りたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

本学会は、1992年に西澤眞紀子先生が設立され、既に三十数年の長い歴史を重ねております。当初の設立目的は時代の状況や要請に適合させ、「国際秘書に関する研究」に特化して発展して参りましたが、その後、その趣旨も時代の変化や動向に合わせ、国際秘書だけではなく、「グローバル社会に適応できる人材教育・職能研究」と領域を広げ活動して参りました。

歴代の会長には、初代に西澤先生、その後に北垣日出子先生、大津洋子先生、高橋眞知子先生、平田祐子先生が就任され、学会の発展にご尽力くださいました。諸先生におかれましてのこれまでのご貢献に深く感謝申し上げます。

そして、今後の本学会の未来を見据えたとき、現在、これまで想像もしていなかった長期に渡るコロナ・パンデミックや他国における紛争によって、日常生活から様々な面において多大な影響を受け、ビジネスの状況にも変化・変革を余儀なくされております。そのような状況の中、本学会の方向性として、そういった時代背景や世界の状況、また昨今世界的な重点課題として取り上げられているSDGsやDXなどの視点も踏まえながら、秘書職・秘書教育に限らず、さらに、ビジネスの在り方の考察・研究や様々な適応力をもったビジネスパーソンの人材育成・教育などにおいて深く活発に研鑽していただける学会として貢献して参りたいと考えております。

新体制がスタートして以降、既に研究体制やその他様々な面におきまして本学会の改革に着手し、現在、会員の皆様に早々にお知らせできる日に向かって鋭意進めているところでございます。

どんな領域・分野における些細な考察や研究・教育も、いずれはグローバル社会に対応する大きなものに繋がっていくものです。会員皆様の積極的なご発表やご参加、ご協力をいただけましたら、幸いです。

今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2022～2024 年度 役員 (2022 年改選)

(2023 年 2 月 28 日現在)

【会長】

大塚 映 (湘北短期大学)

【副会長】

四之宮 玲子 (日本大学)

藤村 やよい (久留米信愛短期大学)

【常任理事】

串田 敏美 (産業能率大学)

【理事】

兒島 尚子 (大阪樟蔭女子大学)

周藤 亜矢子 (常磐短期大学)

高池 宣彦 (常磐短期大学)

高松 直紀 (大阪樟蔭女子大学)

辻 京子 (一般社団法人日本秘書協会)

【監事】

箕浦 恵美子 (名古屋女子大学短期大学部)

森田 篤司 (大阪国際大学短期大学部)

(五十音順)

【事務局】

高池 宣彦 (常磐短期大学)

第31回全国大会・通常総会 オンライン開催

2022年10月9日(日)、大会テーマを「サステナブルな社会実現のための取り組みと人材育成」とし、昨年引き続きZoomによるオンライン形式で開催された。

大会委員長 ご挨拶

第31回大会委員長

藤村 やよい (久留米信愛短期大学)

日本国際秘書学会第31回全国大会は、2022年10月9日(日)、Zoomによるオンライン形式で開催し、全国から沢山の会員の皆様にご参加いただきました。

今回のテーマは、「サステナブルな社会実現のための取り組みと人材育成」でした。昨年のSDGsに続き、特にコロナ禍やウクライナ侵攻など世の中の変化を捉え、持続可能な社会を実現するための取り組みや人材育成について考える良い機会となりました。

午前中は総会が行われ、午後の全国大会では平田祐子会長のご挨拶に続いて3件の研究発表が行われました。いずれの発表の後にも活発な質疑応答が行われ、有意義な時間となりました。

その後の基調講演では、国連UNHCR協会事務局長特命の中村恵氏に「サステナブルな社会実現のために ～国際人緒方貞子氏から学ぶ～」と題してご講演いただきました。世界で活躍された第8代国連難民高等弁務官緒方貞子氏のパーソナルアシスタントを務められたことのある中村氏だからわかる緒方氏の魅力や人柄、考え方などをわかりやすくお話しいただき、興味深く拝聴することができました。持続可能な社会実現のためのUNHCRの取り組みや人材育成の重要性について知見を得、その後の質疑応答でさらに理解を深めることができました。

大会参加者の皆様におかれましては、後期授業が始まって間もない時期の開催にもかかわらず、沢山の会員の皆様にご参加いただきまして誠にありがとうございました。また、大会委員の皆様には、お忙しい中、大会の円滑な運営にご尽力いただき、つつがなく大会を終えることができました。深く感謝いたしております。

来年は対面での開催になることを祈り、大会参加者の皆様に心から感謝いたしまして、厚く御礼申し上げます。

■プログラム

研究発表Ⅰ 「遠隔授業によるキャリア教育の実践

ーテキストマイニングによる感想の分析ー

大阪樟蔭女子大学 高松 直紀

座長：辻 京子

研究発表Ⅱ 「アメリカ駐在経験と今後、企業に求められる SDGs に関する一考察」

大阪国際大学短期大学部 森田 篤司

座長：道添 栄一

研究発表Ⅲ 「資格試験がキャリア形成に及ぼす有効性について」

近畿大学九州短期大学 北岡 昭子

座長：兒島 尚子

基調講演 「サステナブルな社会実現のために ～国際人 緒方貞子氏から学ぶ～」

中村 恵 氏（国連 UNHCR 協会 事務局長特命）

講師紹介：四之宮 玲子

ディスカッション 基調講演者 中村 恵 氏との質疑応答

コーディネーター：四之宮 玲子

■第31回 全国大会 大会委員

委員長 藤村 やよい（久留米信愛短期大学）

副委員長 山本 恭子（名古屋学芸大学）

委員 兒島 尚子（大阪樟蔭女子大学）

四之宮 玲子（日本大学）

辻 京子（茨城女子短期大学）

福井 愛美（神戸女子短期大学）

三次 亜紀子（大阪国際大学短期大学部）

森田 篤司（大阪国際大学短期大学部）

大会テーマ：「サステナブルな社会実現のための取り組みと人材育成」

基調講演

「サステナブルな社会実現のために ～国際人 緒方貞子氏から学ぶ～」

中村 恵 氏 (国連 UNHCR 協会 事務局長特命)

1991年から2000年まで緒方貞子さんが第8代国連難民高等弁務官を務めた同時期に、私はUNHCR職員としてジュネーブ、東京、ミャンマーで勤務。2000年末に退官されてから2003年10月にJICA理事長に就任されるまでの約2年半、UNHCRの公式支援窓口である国連UNHCR協会に在籍しつつ、緒方さんのパーソナルアシスタントを兼務した。2022年2月には、緒方さんから学んだことを多くの人々に伝えたいとの思いから、著書『難民に希望の光を 真の国際人緒方貞子の生き方』を上梓した。

UNHCRは、紛争や迫害などを逃れた難民、国内避難民の命を守り、人権を擁護するとともに、故郷を追われた人々の生活再建を支援している。また、無国籍の根絶を任務とし、無国籍者の国籍取得と無国籍の発生防止に取り組んでいる。UNHCRは1951年に活動を開始した当初、東西冷戦という世界の枠組みのもとで、東側から西側に自由を求めて逃れてくる難民を保護する役割を担っていた。

1989年11月、ベルリンの壁が崩壊し、世界は東西冷戦後の時代へと移行。1991年、緒方さんがUNHCRトップに就任した年の12月にソヴィエト連邦が崩壊し、ロシアをはじめウクライナ、カザフスタン、ウズベキスタン、トルクメニスタン、ベラルーシなど15カ国の独立国になった。ロシアは難民を流出する側だった国から受け入れる国となり、UNHCRに法的な支援を求めた。1994年にウクライナでもUNHCRの活動が始まった。

2014年にウクライナ東部で戦闘が激化し、UNHCRなどの人道支援機関による援助活動が続けられた。2022年2月24日にロシアによる軍事侵攻が始まり、ウクライナの人口の4分の1以上が避難する事態となった。UNHCRはウクライナ国内および周辺国で、政府と連携しつつ人道援助活動に従事している。

その一方で、アフガニスタン、シリア、バングラデシュにミャンマーから逃れたロヒンギャの人々、南スーダン、イエメンなど難民問題を抱える地域では、人道支援に必要な資金が不足するという困難にも直面している。

日本は1970年代後半以降、インドシナ三国から逃れた人々を閣議了解にて1万人以上受け入れた。1981年に難民条約に加入、82年に出入国管理及び難民認定法を整備し運用を開始。難民認定の実務は、法務省出入国在留管理庁が担っている。2010年に第三国定住受け入れを開始し、タイ、次にマレーシアに滞在するミャンマー難民を受け入れてきた。

国連UNHCR協会は、2000年10月に設立され、難民問題への理解と共感を広げ、UNHCRの難民援助活動を支えるために、全国5拠点で活動している。

最後に、著書『難民に希望の光を 真の国際人緒方貞子の生き方』の中から、緒方さんの知的ツールとなった「外交政策決定過程論」、さらに第4章に詳述した緒方さんの強み、①並外れた体力 ②言葉の遣い手 ③学ぶ力 ④超私の奉仕 ⑤楽天性 ⑥ぶれない信念、について紹介した。

中村 恵氏 ご略歴：

東京外国語大学卒業後、フランスに留学。外資系企業勤務を経て、1989年に国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）に就職。ジュネーブ本部、駐日事務所広報室勤務の後、ミャンマーにて援助現場での活動に従事。2000年末にUNHCRを退職し、2001年に筑波大学大学院 修士課程カウンセリングコース修了。日本の民間からUNHCRへの公式支援窓口であるNPO 法人国連UNHCR協会の設立（2000年10月）に関わり、現在は事務局長特命・渉外担当。2022年2月に著書『難民に希望の光を 真の国際人緒方貞子の生き方』刊行。

基調講演における質疑応答

コーディネーター 四之宮 玲子

基調講演者中村氏と参加者との活発な質疑応答が行われた。
(詳細は「研究年報30号」に掲載)

.....

研究発表 I

「遠隔授業によるキャリア教育の実践 ーテキストマイニングによる感想の分析ー」

高松 直紀 (大阪樟蔭女子大学)

本研究は、A女子大学で遠隔授業によるキャリア教育を受講した大学生の感想をもとに、その教育効果を検証し、教育効果を高める手がかりと課題を見出すことを目的とした。その結果、研究対象科目の到達目標である労働法の基礎知識の理解、時事問題の理解と課題の発見、大学時代のキャリアプランの作成は、概ね達成されていた。教育効果を高める手がかりとして、教材は講義動画や視覚的にイメージできるように工夫した電子資料など複数媒体を用いること、反復学習できる環境を整備すること、授業課題の作成に一定程度の期間を設定しておくことなどが考えられた。遠隔授業によるキャリア教育の課題は、教員やクラスメイトとの交流不足による不安感や発表の機会がないこと、クラスメイトの意見による気づきが少ないことなどがあげられた。改善案は、LMSの掲示板機能を用いた受講生同士や教員との意見交換、発表時のみ同時双方向型の授業を実施するなどが考えられた。

研究発表 II

「アメリカ駐在経験と今後、企業に求められる SDGs に関する一考察」

森田 篤司 (大阪国際大学短期大学部)

本発表では、筆者が前職のパナソニック株式会社勤務時のアメリカ駐在時に体験・推進したさまざまなマーケティング活動の具体例を「マーケティングの4P」の観点から説明した。

また、アメリカでの四年間の異文化生活において感じた日米の文化の違い、そして当時のアメリカに根付いていた「モノを大切にする」文化についても紹介した。この「モノを大切にする」文化は、企業に求められる SDGs にも繋がる活動である。世界的な SDGs の潮流で、日本でも積極的に取り組む企業数が拡大した。筆者は企業で働いてきた経験を踏まえ、また企業の SDGs の取組みがビジネスにおける、マーケティングに深く関わるようになってきている昨今の状況に関心を持ち、事例を紹介した。

SDGs の考え方や、現状課題、個人や組織でできること、具体的な企業の取組みなどを学生に伝えることが重要と考え、今後は学生への指導方法や有効な取り組み方法などを立案していく所存である。

研究発表 III

「資格試験がキャリア形成に及ぼす有効性について」

北岡 昭子 (近畿大学九州短期大学)

伝統的な日本型雇用が崩れてきた現在では、離・転職がキャリアデザインの中にあることがもはや珍しくなくなった。転職の際、それまでの実務経験が採否の判断材料となるのは想定されるが、何かの資格を有していることが、採否にいかに関与するかを考察した。その結果、実務経験に加えて、どのような知識や技能をどの程度持っているのかを証明する「資格」を有していることが、転職に有効にはたらく可能性が大きいという見解が得られた。

また、転職は、本人の意思による意図的・計画的なものばかりでなく、想定外のことで失業を余儀なくされる場合もある。予見できない事態の備えとして資格を取得しておき、キャリア形成に有効に活かすということもあり得る。学生へのキャリア教育の中で、学修の成果として資格試験に挑むことの意義を伝えるとともに、長期的な視点で自らのキャリア開発について考えることの大切さも伝えていきたい。

2022（令和4）年度 通常会員総会 議事録 抜粋

1. 日時 2022（令和4）年10月9日（日） 11:00～12:00

2. 方法 オンライン開催

3. 議案

<報告事項>

1. 会員数の動向について
2. 2021（令和3）年度事業報告

<審議事項>

議案1 2021（令和3）年度収支決算について

- (1) 2021（令和3）年度収支決算報告
- (2) 2021（令和3）年度監査報告

議案2 2022（令和4）年度事業計画ならびに収支予算案について

- (1) 2022（令和4）年度事業計画（案）について
- (2) 2022（令和4）年度予算（案）について

議案3 役員改選について

役員改選経過報告（選挙管理委員会）

4. 成立要件 出席者 23名 委任状 14名 計 37名 ※会則第20条5項

5. 議長 会長 平田 祐子 ※会則第20条6項

開会

事務局より、定刻に総会を開会する旨の発言があり、続いて、総会成立要件について説明が行われた。総会出席者数及び委任状の総計が全会員数の過半数に達しており、成立要件を満たしているとの報告がなされた。その後、会則第20条6項により、議長を平田会長が務めた。

報告事項

(1) 会員数の動向について

藤村副会長より、会員数の動向および入退会者の状況について、下記の表の通り報告がなされた。

① 会員数

会員の種類	2021年度通常総会時	2022年度通常総会時
個人会員	59名	51名
アソシエイト会員	3名	4名
学生会員	2名	1名
賛助会員	0名	0名
名誉会員	0名	0名
会員総数	64名	56名

②入退会等状況（2021年度総会以降～2022年度総会時）

入会者：個人1名 北岡 昭子

退会者：個人8名 柏木 葉子、森山 廣美、西澤 眞紀子、伊勢坊 綾、宇都宮 隆、
北村 雅昭、荻田 美奈子、天美 柚紀

資格喪失者：個人1名 内之宮 則子

物故者：なし (敬称略)

(2)2021（令和3）年度事業報告 ……資料1-1～1-3 参照

四之宮副会長より、資料1-1に基づいて2021（令和3）年度（第30回全国大会含む）の事業報告がなされた。資料1-2～1-3に基づいて、2021（令和3）年度の東日本支部会活動報告が笹瀬東日本支部長より、西日本支部会活動報告が児島西日本支部長よりなされた。

審議事項

議案1 2021（令和3）年度収支決算について

(1)2021（令和3）年度収支決算・監査 ……資料2-1～2-4 参照

東野会計理事より、資料2-1～2-4に基づいて2021（令和3）年度の収支決算報告がなされた。飯塚監事より、去る9月17日に飯塚監事および柚木崎監事の立会いのもと監査を実施し、収支決算が正確であり適切に処理されたことが確認された旨、報告がなされた。審議の結果、異議なく承認された。

議案2 2022（令和4）年度事業計画ならびに収支予算案について

(1)2022（令和4）年度事業計画（案）について ……資料3-1 参照

四之宮副会長より、資料3-1に基づいて2022（令和4）年度の事業計画（案）について説明がなされ、異議なく承認された。

(2)2022（令和4）年度収支予算（案）について ……資料3-2 参照

東野会計理事より、資料3-2に基づいて2022（令和4）年度の収支予算（案）について説明がなされ、異議なく承認された。

議案3 役員改選について

役員改選経過報告（選挙管理委員会） ……資料4 参照

若生選挙管理委員長より、資料4に基づいて2022～2024年度役員候補者（案）について説明がなされ、異議なく承認された。

諸連絡

2023年度 第32回全国大会開催は、東日本支部が担当する。

また、編集委員長の道添 栄一先生、編集委員の河合 真知先生と伊藤 理絵先生が退任され、2023年度から高池 宣彦先生が編集委員長に、高松 直紀先生が編集委員に就任されることが発表された。

閉会

議長により、12時に閉会が宣言され、散会した。

以上

2021（令和3）年度事業報告

1. 報告の事業年度

2021（令和3）年9月1日～2022（令和4）年8月31日

2. 報告の事業概要

①2021（令和3）年11月14日（日）13：00～17：30

第30回全国大会開催（Zoomによるオンライン）

担当支部：西日本支部

統一テーマ「SDGsを目指したこれからの秘書の役割 ～アフターコロナに備えて～」

大会委員長：児島 尚子

②2022（令和4）年2月28日 ニューズレターNo. 35 発行

広報統括理事：大塚 映

③2022（令和4）年8月1日 研究年報 第29号発行（55ページ）

「レポート」 3編

「大会報告」第30回全国大会 報告 基調講演

編集委員長 道添 栄一

編集委員 河合 真知、伊藤 理絵、高池 宣彦

3. 支部研究会・ワークショップ

- ・東日本支部 支部研究会1回開催 東日本支部長 笹瀬 佐代子
- ・西日本支部 支部研究会1回開催 西日本支部長 児島 尚子

4. 役員会

- ・理事会 多数開催（サイバー会議）
- ・理事連絡会 多数開催（サイバー会議）

5. 各種委員会

- ①第30回全国大会委員会 サイバー会議多数開催（担当 西日本支部）
- ②第31回全国大会委員会 サイバー会議多数開催
（合同開催：西日本支部、東日本支部）
- ③研究年報編集委員会 サイバー会議多数開催

資料1-2

東日本支部会活動報告

東日本支部長 笹瀬 佐代子

(1)支部会

東日本支部会

1月～8月多数開催（サイバー会議）

2022年8月6日（土）Zoomによるオンライン

(2)支部研究会

日時：2022年8月6日（土）10：00～11：40（Zoomによるオンライン）

テーマ：現役秘書によるコロナ禍の実務変化

パネリスト：Zホールディングス株式会社 合原 香穂里氏

共同カイテック株式会社 生島 美穂氏

パレクセル・インターナショナル株式会社 吉岡 真智子氏

（五十音順）

参加者：12名

資料1-3

西日本支部会活動報告

西日本支部長 兒島 尚子

(1)支部会

西日本支部会

9月～11月多数開催（サイバー会議）

(2)支部研究会

日時：2022年8月8日（月）13：30～16：30（Zoomによるオンライン開催）

研究発表：「米国駐在経験からのビジネスと文化の一考察」

大阪国際大学短期大学部 森田 篤司

講演：テーマ「放送業界の現状と今後」

講師：坂井 克行（フリージャーナリスト）

参加者：14名

2021（令和3）年度収支決算及び監査報告
 一般会計収支決算・監査報告

日本国際秘書学会
 2021（令和3）年度一般会計収支決算書
 （2021年9月1日～2022年8月31日）

（単位：円）

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	2,054,737	研究年報発行費	83,184
東日本支部繰越金	17,807	印刷費	0
西日本支部繰越金	9,297	通信費	6,230
会員年会費	382,000	広報活動費	140,866
（個人会員〔含過年度分〕	360,000）	消耗品費	0
（学生会員	10,000）	会議会合費	0
（アソシエイト会員	12,000）	旅費交通費	0
雑収入	1,500	支部委託金	60,000
預貯金利息	12	雑費	0
全国大会収益	22,678	租税公課	0
		手数料	2,365
		分科会活動費	0
		特別活動費	0
		次年度繰越金	2,195,386
合計	2,488,031	合計	2,488,031

注）第30回全国大会報告、各支部会計報告は含まれていない。

2022年9月7日

会計担当理事 東野 國子



監査報告

私どもは、日本国際秘書学会の2021（令和3）年9月1日から2022（令和4）年8月31日までの期間の関係帳票および会計報告を監査した結果、上記収支決算書が正確であることを認めます。

2022年9月17日

監事 飯塚 淳



監事 柚木崎 千春



東日本支部収支決算・監査報告

日本国際秘書学会
2021年度 東日本支部 収支報告書
(2021年9月1日～2022年8月31日)

(単位：円)

収入の部		支出の部	
支部運営費	30,000	講師料	0
研究会参加費	0	会議費(会場費・飲食代)	0
預貯金利息	0	交通費	0
		通信費	2,020
		消耗品費	0
		菓子代	10,173
		支払手数料	0
		預貯金利息繰越金	0
		次年度繰越金	17,807
合計	30,000	合計	30,000

2022年8月31日

東日本支部長

笹瀬 佐代子



監査報告

私どもは、日本国際秘書学会の2021(令和3)年度 特別会計(東日本支部通常資金収支報告)会計関係帳票および会計書類を監査した結果、上記収支決算書が正確であることを認めます。

2022年9月17日

監事 飯塚 淳



監事 柚木崎 千春



西日本支部収支決算・監査報告

日本国際秘書学会
2021年度 西日本支部収支報告書
(2021年9月1日～2022年8月31日)

(単位:円)

収入の部		支出の部	
支部運営費	30,000	会議費	0
研究会参加費	0	講師料	20,000
預貯金利息	0	支払手数料	165
		通信費	538
		消耗品費	0
		預貯金利息繰越金	0
		次年度繰越金	9,297
合計	30,000	合計	30,000

2022年8月31日

西日本支部長

兒島 尚子



監査報告

私どもは、日本国際秘書学会の2021(令和3)年度 特別会計(西日本支部通常資金収支報告)会計関係帳票および会計書類を監査した結果、上記収支決算書が正確であることを認めます。

2022年9月17日

監事 飯塚 淳



監事 柚木崎 千春



特別会計収支決算・監査報告

日本国際秘書学会

2021年度 第30回全国大会収支報告書

(2021年11月14日開催)

(単位:円)

収入の部		支出の部	
借入金	150,000	借入金返済	150,000
全国大会参加費	66,000	会議費	1,846
(会員27名 54,000円)		講師料	30,000
(ビジター12名 12,000円)		印刷費	0
		交通費	3,620
		通信費	759
		消耗品費	0
		振込手数料	210
		雑費	6,887
		全国大会収益	22,678
合計	216,000	合計	216,000

2022年1月14日

会計担当 河合 真知



監査報告

私どもは、日本国際秘書学会の2021(令和3)年度 特別会計(第30回全国大会収支報告)会計関係帳票および会計書類を監査した結果、上記収支決算書が正確であることを認めます。

2022年9月17日

監事 飯塚 淳



監事 柚木崎 千春



2022（令和4）年度事業計画ならびに収支予算案について

（1）2022（令和4）年度事業計画

1）事業年度

2022（令和4）年9月1日～2023（令和5）年8月31日

2）事業概要

①2022（令和4）年10月9日（日） 2022年度通常会員総会の開催（オンライン開催）

②2022（令和4）年10月9日（日） 第31回全国大会開催

大会開催担当支部： 西日本支部、東日本支部

合同開催

開催方法： オンライン開催（大会事務局）

大会委員長： 藤村 やよい（久留米信愛短期大学）

③2023（令和5）年2月 ニューズレターNo. 36 発行

④支部会・ワークショップ

・東日本支部 2回程度開催予定

・西日本支部 2回程度開催予定

⑤役員会

理事会兼役員会 数回開催

⑥各種委員会

・第31回全国大会委員会 オンライン会議2回、随時メール会議開催

・第32回全国大会準備委員会 開催

全国大会に向けての準備委員会を発足し、スケジュールを立てる。

委員長・副委員長を選任し委員の各担当を決定する。

大会事務局を設置する。

・研究年報編集委員会 随時サイバー会議の開催

(2)2022 (令和4) 年度予算 (案) について

(2022年9月1日～2023年8月31日)

収入の部			支出の部		
科目	2021年実績	2022年予算	科目	2021年実績	2022年予算
前年度繰越金	2,054,737	2,195,386	研究年報発行費	83,184	100,000
東日本支部繰越金	17,807	-	印刷費	0	0
西日本支部繰越金	9,297	-	通信費※1	6,230	40,000
全国大会収益	22,678	-	広報活動費※※2	140,866	50,000
会員年会費	382,000	350,000	消耗品費	0	10,000
雑収入	1,500	-	会議会合費	0	10,000
預貯金利息	12	12	旅費交通費	0	30,000
			支部委託金	60,000	60,000
			雑費	0	5,000
			手数料	2,365	5,000
			租税公課	0	0
			分科会活動費	0	10,000
			研究促進名簿	0	0
			大会予備費※※※3	0	20,000
			次年度繰越金	2,195,386	2,205,398
合計	2,488,031	2,545,398	合計	2,488,031	2,545,398

◆2022年度予算の補足説明

※1 来年度より学会で研究会や全国大会などを行う場合に備え統一した Zoom のアカウントを取得することとした。

その費用として今回「通信費」40,000円を計上する。

※※2 今年度「研究年報デジタル化」を行うために150,000円費用を計上したが、勘定科目を広報活動費として処理した。

※※※3 今年度は全国大会が Zoom での開催となったが、次年度は開催形式が不明なため、大会費用が発生することを考慮して、「予備費 (大会費用)」として今回20,000円を計上する。

2022～2024 年度役員候補者（案）

2022 年 10 月 2 日現在

		候補者名	備 考	所属等
理 事	推 薦 理 事	大 塚 映	理事会推薦・現職（3 期目）	湘北短期大学
		四 之 宮 玲 子	理事会推薦・現職（2 期目）	日本大学
		東 野 國 子	理事会推薦・現職（2 期目）	四天王寺大学
		兒 島 尚 子	理事会推薦・現職（3 期目）	大阪樟蔭女子大学
	選 挙 理 事	串 田 敏 美	追加候補（推薦者：平田 祐子・四之宮 玲子・大塚 映）	産業能率大学
		飯 塚 淳	追加候補（推薦者：平田 祐子・四之宮 玲子・大塚 映）	国立研究開発法人 科学技術振興機構
		高 池 宣 彦	追加候補（推薦者：平田 祐子・四之宮 玲子・大塚 映）	常磐短期大学
		高 松 直 紀	追加候補（推薦者：平田 祐子・四之宮 玲子・大塚 映）	大阪樟蔭女子大学
		周 藤 亜 矢 子	追加候補（推薦者：平田 祐子・四之宮 玲子・大塚 映）	宇都宮大学大学院
	監 事	森 田 篤 司	追加候補（推薦者：平田 祐子・四之宮 玲子・大塚 映）	大阪国際大学 短期大学部
箕 浦 恵 美 子		追加候補（推薦者：平田 祐子・四之宮 玲子・大塚 映）	名古屋女子大学 短期大学部	

支部だより

【東日本支部】 東日本支部長 周藤 亜矢子

◆活動計画

- ・2023年 東日本支部会開催予定（オンライン・日時未定）

◆会員の皆様

この度、東日本支部長を拝命いたしました周藤（しゅうどう）亜矢子と申します。今年度は、研修会の開催を検討しています。会員の皆様の意義ある活動の1つとなるために、ぜひ学びたいテーマや参加したい企画をご提案ください。どうぞよろしく願いいたします。

【西日本支部】 西日本支部長 児島 尚子

◆活動計画

- ・西日本支部会開催予定
日程：2023年8月予定
場所：大阪市内予定

◆会員の皆様

昨夏の西日本支部研究会は、Zoomによるオンライン開催ではありましたが、フリージャーナリストの坂井克行氏をお迎えし、「放送業界の現状と今後」についてご講演いただきました。参加者にとりまして、別世界のお話で、とても興味深く拝聴いたしました。

コロナウィルスの収束はいつなのかと、ここ数年ニューズレターに記して参りましたが、皆様、コロナウィルスに負けず、仕事・私生活ともに、健康第一にお過ごしください。そして、お目にかかって情報交換できる日を心から楽しみにいたしております。

事務局からのお知らせ

第32回全国大会 予告

開催日時：2023年 秋頃（決定次第、HPにてお知らせします）

開催会場：未定

◎JAISS 研究年報の既刊号を販売しています。

購入希望の方は本部事務局までご連絡ください。（1部1,000円）

◎会員情報の変更届について

ご住所、所属機関、連絡先などのご変更が生じましたら、本部事務局までメールでご連絡ください。

本部事務局 E-mail:jaissjimukyoku@gmail.com

◎新入会員をご推薦ください。

入会申込書は学会ホームページからダウンロードできます。

<http://www.jaiss.sakura.ne.jp/nyukai.htm>

「2022年より、会員1名の推薦者を記載して申し込むこと」となりました。

日本国際秘書学会 発行

本部事務局

常磐短期大学 キャリア教養学科 高池研究室内

〒310-8585 茨城県水戸市見和1-430-1

Tel: 029-232-2553(直通)

E-mail: jaissjimukyoku@gmail.com

ホームページ:<http://www.jaiss.sakura.ne.jp/index.htm>